

令和2年度

# ミドルリーダー研修Ⅰの手引

(中堅教諭等資質向上研修)

栄養教諭・学校栄養職員

徳島県教育委員会

# 目 次

I	ミドルリーダー研修 I（中堅教諭等資質向上研修）の概要	1
1	研修の目的	
2	受講対象者	
3	研修の内容等	
4	その他	
II	校外研修	2
1	校外研修の概要と日数	
2	研修講座の申込みと受講について	
III	校内研修	3
1	校内研修の概要と日数	
2	校外研修との関連	
3	研修の振り返り	
IV	模擬授業研修	5
1	模擬授業研修とは	
2	模擬授業研修実施教科等について	
3	模擬授業研修の事前準備	
4	模擬授業研修の実施	
5	模擬授業研修終了後	
V	研修の流れ	9
VI	とくしま教員育成指標	10
VII	ミドルリーダー研修 I で使用する様式の記入例について	11
	【栄 様式(A)】とくしま教員育成指標に基づく自己評価票	
	【栄 様式(B)】とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定	
	【栄 様式(C)】ミドルリーダー研修 I（校外・校内）研修計画書	
	【栄 様式(D)】ミドルリーダー研修 I 事前評価票	
	ミドルリーダー研修 I 事前評価票・研修計画書送付状	
	【栄 様式(E)】ミドルリーダー研修 I 校外研修実施報告書	
	【栄 様式(F)】ミドルリーダー研修 I 校内研修実施報告書	
	【栄 様式(G)】ミドルリーダー研修 I 事後評価票	
	ミドルリーダー研修 I 終了に係る報告書類送付状	
	【栄 様式(H)】欠席届	
	【栄 様式(I)】ミドルリーダー研修 I 受講延期願	

※ミドルリーダー研修 I に係る様式は

総合教育センターのWebサイト 「様式のダウンロード」 → 「教職員研修の様式」 → 「ミドルリーダー研修 I 様式」 からダウンロードして使用することができます。

# I ミドルリーダー研修 I（中堅教諭等資質向上研修）の概要

## 1 研修の目的

ミドルリーダー研修 I（中堅教諭等資質向上研修）〔栄養教諭・学校栄養職員〕は、教育公務員特例法第 24 条の規定に準じ、個々の能力、適性等に応じて、教育活動その他の学校運営において中核的な役割を果たすことが期待される中堅栄養教諭・学校栄養職員としての職務を遂行する上で必要とされる資質・能力の向上を図るために実施する。

## 2 受講対象者

原則として、採用後、教職経験 9 年を終了した小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校の栄養教諭・学校栄養職員

## 3 研修の内容等

### (1) 内容

- ① 徳島県教育委員会は、ミドルリーダー研修 I 受講者について、「とくしま教員育成指標」を踏まえて体系的にミドルリーダー研修 I を実施する。
- ② ミドルリーダー研修 I の研修の柱は次のとおりである。
  - ア 「素養」の育成を図る研修
  - イ 「担任力」に関する研修
  - ウ 「専門的職務実践力」に関する研修
  - エ 「協働力」に関する研修

### (2) 研修の日数

研修の日数は、次のとおりである。

校外研修	校内研修
5 日間	5 日間

### (3) 実施上の留意事項

- ① 校長は、受講者の校務分掌等について、軽減を図るように努めるものとする。
- ② 校長は、本研修が実効性のあるものとなるよう、計画的な学校運営に努めなければならない。
- ③ ミドルリーダー研修 I は、原則として当該年度中に終了するものとする。

## 4 その他

### (1) 受講者の決定等について

- ① 事情により、当該栄養教諭等の研修受講年度を次年度以降とすることについては、受講予定者本人、校長及び市町村教育委員会教育長の意見を参考に徳島県教育委員会が判断する。
- ② 国立学校等の場合は、校長から直接徳島県教育委員会に所定の手続きをするものとする。

### (2) 校外研修における欠席について

- ① 欠席する場合、校長は、所定の欠席届を総合教育センター所長に提出する。
- ② 欠席日数が多い場合には、徳島県教育委員会内に置く判定委員会の審議を経て、再受講を課すことがある。

## Ⅱ 校外研修

### 1 校外研修の概要と日数

5日間の校外研修は、次の(1)～(4)からなる。

校外研修の日程については、別紙の「校外研修日程一覧表」に示す。

#### (1) 共通研修（2日間）

全ての受講者を対象に、次の日程・内容で行う。

・共通研修(1)： 4月 6日(月) 会場：総合教育センター

(研修内容) ○講義「ミドルリーダーの求心力」

○講義・演習「教職員のサービス・規律」

○オリエンテーション

・共通研修(2)： 12月25日(金) 会場：総合教育センター

(研修内容) ○講義「カリキュラム・マネジメントについて」

○メンター制に関する研修

#### (2) 模擬授業研修（1日間）

夏季休業期間中（8月5日）に模擬授業を実施する。研修にはフレッシュ研修Ⅱ受講者も参加し、授業に関する研究協議を行う。 [p 5「Ⅳ 模擬授業研修」参照]

#### (3) 栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修（1日間）

徳島県教育委員会が主催する栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修講座を受講する。

月/日(曜)	講座名	研修内容
7/28(火)	食に関する指導研修/ 学校給食管理研修	食に関する指導の工夫・改善について考える。学校給食管理における市町村の課題を踏まえた協議を行う。

#### (4) 選択研修（1日間）

別紙「校外研修日程一覧表」,「大学・研究機関等研修予定表」,「独自研修予定表」等により研修日を確認し,「資質向上研修」の講座を1日間選択して受講する。

その際,総合教育センターのWebサイト上の「教職員研修講座」の「講座要項」→「ミドルリーダー研修Ⅰ(栄養教諭・学校栄養職員)」→「各研修講座の実施要項」[※5月11日(月)までにアップ予定]で,研修講座の内容を必ず確認する。

### 2 研修講座の申込みと受講について

(1) 別紙「校外研修日程一覧表」等により研修日を確認し,(C)「ミドルリーダー研修Ⅰ(校外・校内)研修計画書」を作成する。

(2) 校外研修は,各学校の研修講座申込みID,パスワードを用いて5月11日(月)～22日(金)の間に,総合教育センターのWebサイト上の「教職員研修講座」の「講座申込」内にある「ミドルリーダー研修Ⅰ(栄養教諭・学校栄養職員)」から申し込む。その際,選択研修だけでなく,共通研修,模擬授業研修,栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修についても申込みをすること。

- (3) 申し込んだ講座の受講が可能かどうかは、6月8日(月)午前10時以降に総合教育センターのWebサイトから確認できる。
- (4) (E)「校外研修実施報告書」は、共通研修(1)で配付した用紙に受講が確定した講座名を各自記入し、そのコピーを総合教育センター教職員研修課に郵送する。 **提出期限：令和2年6月26日(金)**
- (5) (E)「校外研修実施報告書」は、各研修講座当日の受付時に研修講座担当者に提出して押印を受け、終了時に受け取ること。
- (6) やむを得ず欠席しなければならなくなった場合は、管理職員(緊急の場合は本人)が総合教育センター教職員研修課(088-672-5100)に速やかに電話連絡する。
- 教職員研修課長により、欠席が承諾された場合、総合教育センターのWebサイト又は本冊子に掲載しているミドルリーダー研修Ⅰの(H)「欠席届」を、速やかに総合教育センター所長に提出する。

### Ⅲ 校内研修

#### 1 校内研修の概要と日数

5日間の校内研修は、次の(1)～(3)からなる。

校内研修においては、3時間の研修で、1日間と数える。3時間を連続して設定しなくてもよい。

#### (1) とくしま教員育成指標に基づく自己評価の実施及び研修計画の立案(1日間)

- ① 受講者は、(A)「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、(B)「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」(【研究テーマ】まで)、(C)「ミドルリーダー研修Ⅰ(校外・校内)研修計画書」を作成して校長に提出し、校長の承認を受ける。

#### 【管理職員による研修計画の承認と書類の作成】

- ① 校長は、受講者に期待することや本人の目標達成につながるかどうかを判断して、(C)「ミドルリーダー研修Ⅰ(校外・校内)研修計画書」を承認する。
- ② 受講者の提出した(A)「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、(B)「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」や、日頃の勤務状況等を勘案して、(D)「事前評価票」を作成する。
- ③ 様式(C)、(D)を各1部提出する。

【国立・県立学校】提出先：県教育委員会 教職員課 **提出期限：令和2年5月15日(金)**  
 【市町村立学校】提出先：市町村教育委員会 **提出期限：令和2年5月15日(金)**

#### ② 留意点

ア 受講者は、様式(B)の【自己分析に基づく本年度の目標】及び【学校・地域活性化の視点】に基づき、栄養教諭・学校栄養職員の職務に関することで、普段の取組の範囲内で実践できる研究のテーマを設定する。

イ 学校・地域の実情を踏まえ、ミドルリーダーとして求められる資質・能力(「とくしま教員育成指標」参照)を勘案し、テーマに沿った具体的取組を構想する。

ウ 栄養教諭・学校栄養職員としての普段の職務を通して、周囲に働きかける等実践を行う。研究の実践に関して、校長、副校長及び教頭等は、適宜、指導・助言を行う。

## (2) 教科等の指導に関する研修（3日間）

- ① 3日間の構成は、教材研究及び学習指導案作成（2日間）+研究授業及び研究協議（1日間）とする。
- ② 研究授業は「模擬授業研修」で扱った単元（題材）を必ず行うものとする。研究授業は原則として9月～12月に実施し、研究授業終了後は指導案を修正して、総合教育センターのミドルリーダー研修Ⅰ担当に提出する。 [p 5「Ⅳ 模擬授業研修」参照]
- ③ 校長、副校長及び教頭等は、教材研究及び学習指導案作成において、適宜、指導・助言を行うとともに、研究授業を観察・評価し、指導・助言を行う。
- ④ 学校訪問、各教科等研究会で行う研究授業を充てることは原則としてできない。ただし、管理職員等（管理職員に代わり、主幹教諭、指導教諭、学部長も可）がその全てを参観し、その後の授業研究会で指導助言を行えば研究授業と兼ねることができる。

## (3) 実践報告書の作成（1日間）

1年間を通して取り組んだ内容について実践報告書（A4用紙1ページ以上）を作成する。報告書は全教職員で共有し、校長、副校長及び教頭等の指導・助言を受け、次年度の学校運営に生かすようにする。

もし、プレゼンテーションを作成した場合は、報告書として提出することも可とする。その場合、スライドの総数は8枚以上とし、A4用紙1ページにスライドを4枚印刷して2ページ以上（両面印刷で1枚以上）で提出する。

実践報告書は、総合教育センター教職員研修課ミドルリーダー研修Ⅰ担当に紙媒体で提出する。

提出期間：令和3年2月1日（月）～2月24日（水）

## 2 校外研修との関連

- (1) 校内研修全般にわたり、校外研修で習得した知識や経験を基に、校長、副校長及び教頭等の指導・助言を得て、研修を行う。
- (2) 校外研修、校内研修ともに、『素養』の育成、「担任力」、「専門的職務実践力」、「協働力」が研修の柱であることを踏まえて、研修を行う。

## 3 研修の振り返り

4月に作成した（A）「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、（B）「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」の【自己分析に基づく本年度の目標】に照らし合わせ、年度末に【本年度の振り返り】を行い、研修の成果と課題を記述する。

研修の成果を次年度からの教育実践にどう生かしていくか、本年度見えてきた課題を今後の教育実践においてどう解決していくかについて、ミドルリーダー研修Ⅱ（教職経験15年終了後に実施予定）に向けての取組を校長に提出し、校長の承認を受ける。

（A）「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、（B）「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」は、校長の承認後、A4用紙に表裏両面印刷をして、総合教育センター教職員研修課ミドルリーダー研修Ⅰ担当に提出する。

提出期間：令和3年2月1日（月）～2月24日（水）

**【管理職員による報告書の確認等と書類の提出】**

- ① 校長は、(E)「校外研修実施報告書」を確認、(A)「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」、(B)「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」、(F)「校内研修実施報告書」を承認する。
- ② 校長は受講者の1年間の取組の様子や提出書類等を踏まえ、(G)「ミドルリーダー研修Ⅰ事後評価票・ミドルリーダー研修Ⅰ終了に係る報告書類送付状」を作成する。
- ③ 様式(E)・(F)・(G)を各1部提出する。

【国立・県立学校】提出先：県教育委員会 教職員課 提出期限：令和3年2月24日（水）

【市町村立学校】提出先：市町村教育委員会 提出期限：令和3年2月24日（水）

## IV 模擬授業研修

### 1 模擬授業研修とは

模擬授業研修はミドルリーダー研修Ⅰ受講者と、フレッシュ研修Ⅱの受講者がともに行う研修である。授業力の向上を目指すとともに、ミドルリーダーとして若手教員育成の視点をもって授業実践、研究協議を行う。また、模擬授業研修実施に当たっての連絡調整、運営等を含めてマネジメント実践の場とする。

### 2 模擬授業研修実施教科等について

模擬授業研修は教科等における「食に関する指導」について、1日間の研修を行う。模擬授業研修で修正した指導案を基に、校内研修の「(2)教科等の指導に関する研修」で研究授業を行う（原則9月～12月に実施）。そのため、模擬授業を行う単元（題材）は、所属校において実際に行う予定の単元（題材）の中から選ぶものとする。

### 3 模擬授業研修の事前準備

#### (1) 班編制と役割分担、報告

共通研修(1)において模擬授業研修の班の役割等を決定し、8月5日（水）に模擬授業を実施する。

##### ○主な役割と分担例

班 長：講師（模擬授業研修の指導・助言を行う指導主事等）、班員との連絡調整、決定事項の伝達、研修当日の運営の計画と運営

マッチング担当：フレッシュ研修Ⅱ受講者の班長との連絡調整、研修当日の運営

記録係：研修協議記録を整理、提出、研修当日の運営

班員の連絡先を確認して報告用紙をミドルリーダー研修Ⅰ担当に提出する。控えは班長が管理する。

報告期限：4月6日（月）

#### (2) 模擬授業研修の申込み

各自で、模擬授業研修についても他の研修と同様にセンターのWebサイトで申し込み、(C)「校外研修計画」と(E)「校外研修実施報告書」に記入する。申込期間：5月11日（月）～5月22日（金）

#### (3) フレッシュ研修Ⅱ受講者との連絡、報告

マッチング担当にフレッシュ研修Ⅱ班長から連絡があるので、フレッシュ研修Ⅱの班の人数や今後の

連絡先を確認する。期限までに連絡がない場合は、ミドルリーダー研修Ⅰ担当に報告する。

確認期限：5月22日（金）

**【フレッシュ研修Ⅱ実施日】**

5月13日（水）中，特，養      5月14日（木）高      5月15日（金）小，栄

※フレッシュ研修Ⅱ班長からの連絡は、この日以降にある。複数班がマッチングしている場合は、マッチング担当はそれぞれの班長と連絡を取り合う。

**(4) 模擬授業研修の確認事項**

確認期限(目安)：6月26日(金)

班長は模擬授業研修の実施に関して、次の①～④について講師と打合せを行い、班員に連絡する。

**① 学習指導案の様式**

様式を講師に確認して、班員に伝える。

**② 準備物**

原則として、模擬授業研修に必要な教科書、指導書、教材・教具等は、全て各自で準備する。研修会場で借用する場合は、講師と相談する。

※ICT機器の使用に関して、個人のパソコン、タブレット、スマートフォンを使用することができるが、総合教育センターのネットワークには接続できない。

**③ 模擬授業研修日**

模擬授業研修の実施が、決められた日にどうしても困難な場合は、講師と相談して別日に実施する。その場合は速やかに、班長からミドルリーダー研修Ⅰ担当に連絡をすること。また、マッチング担当者は、フレッシュ研修Ⅱ班長に新しい模擬授業研修日を連絡する。新しい模擬授業研修日についてフレッシュ研修Ⅱの班員への連絡は、フレッシュ研修Ⅱの班長が行う。

**④ 研修実施場所**

模擬授業研修は原則として総合教育センターで実施する。

**(5) 模擬授業研修に関する報告**

班長は班員が模擬授業で使用する機器や、プレゼンテーション等のデータの有無を確認し、ファクシミリでミドルリーダー研修Ⅰ担当に報告する。報告用紙はセンターのWebサイトからダウンロードして使用できる。なお、使用する予定がない場合も、その旨を報告すること。 **報告期限：7月3日(金)**

**【報告の必要な事項】（班長）**

①使用機器（パソコン、タブレット、プロジェクター、実物投影機）

※デジタル教科書は使用できない。

②インターネット接続の有無

※インターネットに接続する場合は、準備のため、事前の報告が必要である。

③私物パソコン等の持ち込みの有無

※プロジェクターに接続するケーブルは主としてVGAケーブルのため、変換が必要な場合はアダプター等を各自で準備すること。

**(6) 模擬授業実施単元（題材）の報告とフレッシュ研修Ⅱ受講者の課題の受け取り**

模擬授業研修では、事前にフレッシュ研修Ⅱ受講者に模擬授業の実施予定の単元（題材）を伝えて、簡単な授業構想等をして研修に参加してもらおう。また、フレッシュ研修Ⅱ受講者から提出された課題は、



研究協議を行う際の参考とする。

**【フレッシュ研修Ⅱ受講者との連絡】（マッチング担当）**

- ① 班員は模擬授業で実施予定の単元（題材）を、班のマッチング担当に報告する。
  - ② マッチング担当は班員の実施予定単元（題材）を、フレッシュ研修Ⅱ班長に送付する。
  - ③ フレッシュ研修Ⅱ班長から送付されたフレッシュ研修Ⅱ受講者の課題を、ミドルリーダー研修Ⅰの班員と講師に知らせる。
- 連絡期限：7月22日（水）**

**(7) 学習指導案、データ、資料等の提出**

模擬授業研修ではICTを有効活用した授業づくりを意識する。各自、模擬授業研修の10日前までに、指導案、作成したプレゼンテーション等のデータや資料を直接講師に送付し、個別に指導案等について指導を受ける。

**学習指導案等提出期限：7月22日（水）**

受講者は学習指導案の加筆・修正等を行い、模擬授業研修当日は、修正した学習指導案とワークシート等を参加人数分（講師＋ミドルリーダー研修Ⅰ班員＋フレッシュ研修Ⅱ班員）持参する。

〈指導案送付に関する電子メールの件名及びファイル名〉

**「受講者番号(名札の職種と番号)-指導案-氏名-教科等」**

※講師の電子メールアドレスは、講師が決定した後、各受講者に文書で案内する。

※授業に使うプレゼンテーション等のデータが電子メールで送付できない場合は、DVD、USBメモリ等に保存して持参し、当日の朝、1階企画総務課で必ずウイルスチェックを受ける。

**(8) 事前打合せ**

班長は、模擬授業研修当日の運営について講師と打合せを行う。また、事前に班員と当日の運営に関する役割分担や協議内容の共通理解を図り、円滑な運営を心がける。

**4 模擬授業研修の実施**

**(1) 模擬授業研修当日の運営**

受付は各研修会場で行う。

講師から簡単な日程の説明を受けた後は、ミドルリーダー研修Ⅰ受講者が運営を行う。研究協議の司会、記録等は交代で行うなど、班員数に応じて柔軟に対応する。

**(2) 模擬授業の実施**

ミドルリーダー研修Ⅰ受講者は、交代で模擬授業を行う。機器の設置や片付けは全員で行う。

**(3) 研究協議の実施**

それぞれの模擬授業について研究協議を行い、講師の指導助言を受ける。

研究協議の運営では、フレッシュ研修Ⅱ受講者が協議に積極的に参加できるような工夫をする。

分担して協議記録を行った場合は、記録担当者が協議記録をまとめ、ミドルリーダー研修Ⅰ担当に電子メールで提出する。

**報告期限：9月30日（水）**

午前7時の時点で、研修会場を含む地域に、特別警報、暴風警報又は大雪警報が発表中の場合は、その日の研修を中止する。中止になった場合は、講師と受講者で相談の上、別日に模擬授業・研究協議を実施する。対応については、班長が代表して講師及びミドルリーダー研修Ⅰ担当と連絡を取る。

## 5 模擬授業研修終了後

### (1) 研究授業の実施

各受講者は模擬授業研修の協議における質疑や指導助言を基に、学習指導案を修正し、所属校で研究授業を行う。 [p 4 III-1-(2)-② 参照]

### (2) 学習指導案の提出

研究授業終了後1週間をめどに、学習指導案2部(1部は授業者の氏名や児童生徒の個人情報等を削除したもの)をミドルリーダー研修I担当に電子メールで提出する。

最終提出日：12月25日(金)

※個人情報を削除した学習指導案を、総合教育センターカリキュラムサポートセンターでの閲覧用として、保管することを御了承ください。

#### ○学習指導案の送付先

総合教育センター 教職員研修課 ミドルリーダー研修I担当

e-mail: middle\_1@mt.tokushima-ec.ed.jp

小文字のエル ← 数字の1

電話：088-672-5100

#### ○指導案送付に関する電子メールの件名及びファイル名(同一にする)

##### **「受講者番号(名札の職種と番号)-最終指導案-氏名-教科等」**

※提出確認に必要であるため、厳守すること。「ミドルリーダー研修I指導案の送付」等の件名では、送信者を確認できないため要注意。ファイル名についても同様。

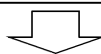
※電子メール作成時に、「開封確認メールを要求」と設定する等により、送信先が電子メールを受信できたことを確認する。

## V 研修の流れ

【4・5月】

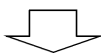
※（ ）内は様式の記号を表している。

とくしま教員育成指標に基づく自己評価の実施及び研修計画の立案 〈校内研修の1日間〉	
受講者	○自己評価の実施，研修計画の作成と校長への提出 (A)「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」 (B)「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」 ※【研究テーマ】までを記入 (C)「ミドルリーダー研修Ⅰ（校外・校内）研修計画書」
校長	○研修計画の承認等と書類の提出 (C)「ミドルリーダー研修Ⅰ（校外・校内）研修計画書」を承認 (D)「ミドルリーダー研修Ⅰ事前評価票・研修計画書送付状」を作成 【提出先】国立・県立学校：県教育委員会 教職員課，市町村立学校：市町村教育委員会 【提出期限】令和2年5月15日(金)
市町村教委	○各校からの(C)，(D)を確認・承認して提出 【提出先】県教育委員会 教職員課 【提出期限】令和2年5月22日(金)
県教委	○各講座の受講者を決定 【決定期日】令和2年6月8日(月)



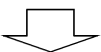
【6月・7月】

校外研修準備	
受講者	○(E)「校外研修実施報告書」を作成，コピーを1部，郵送 【提出先】総合教育センター 教職員研修課 【提出期限】令和2年6月26日(金) ○模擬授業研修の事前準備



【主に6～1月】

校外研修 〈総合教育センター等で5日間の研修〉	
◇共通研修〈2日間：4・12月〉 ◇模擬授業研修〈1日間：8月〉 ◇栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修（1日間：7月） ◇選択研修〈1日間以上：7・8月〉	
校内研修 〈校内で管理職員等の指導・助言を受けて行う研修〉	
○教科等の指導に関する研修〈3日間〉 ・教材研究及び学習指導案作成（2日間）＋研究授業及び研究協議（1日間） ・研究授業実施後，学習指導案を電子メールで提出 【提出先】総合教育センター 教職員研修課 【提出期限】令和2年12月25日(金)	
○実践報告書の作成〈1日間〉 ミドルリーダーとしての実践を報告書にまとめる。 ※報告は全教職員で共有する。	



【学年末】

研修成果の評価	
受講者	○研修の振り返りと研修報告書の作成と校長への提出 「実践報告書」 (A)「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」 (B)「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」 (E)「校外研修実施報告書」，(F)「校内研修実施報告書」
校長	○「実践報告書」，(A)，(B)の承認と提出 【提出先】総合教育センター 教職員研修課 【提出期間】令和3年2月1日(月)～24日(水) ○研修報告書の確認等と書類の提出 (E)「校外研修実施報告書」の確認と報告 (F)「校内研修実施報告書」の承認と報告 (G)「ミドルリーダー研修Ⅰ事後評価票・ミドルリーダー研修Ⅰ終了に係る報告書類送付状」 【提出先】国立・県立学校：県教育委員会 教職員課，市町村立学校：市町村教育委員会 【提出期限】令和3年2月24日(水)
市町村教委	○各校からの(E)，(F)，(G)を確認・承認して提出 【提出先】県教育委員会 教職員課 【提出期限】令和3年3月2日(火)
県教委	受講者の研究成果物等を公開し，教職員の今後の指導や研修に活用

# VI とくしま教員育成指標

栄養教諭用		とくしま教員育成指標				平成30年度改訂		
資質・能力	キャリアステージ	採用時に本県が求める姿	〈第1ステージ〉		〈第2ステージ〉		〈第3ステージ〉	
		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期		
素養	A	使命感・情熱・たくましさ	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。			
	B	倫理観	○ 社会人としての常識やマナー、道徳性を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令等を遵守し、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。			
	C	人権尊重の精神	○ 自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 児童生徒一人ひとりの抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。			
	D	識見・学び続ける力	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもちて自己研鑽に努めるとともに、範を示している。			
	E	社会性・コミュニケーション力	○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイ役となり、支え合う環境づくりをしている。			
担任力	A	児童生徒理解・指導力	○ 児童生徒理解の意義を理解し、生徒指導や教育相談等の基本的な方法を身に付けている。	○ 児童生徒に向き合い、一人ひとりの人格を尊重し、共感的理解に努めるとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童生徒の発達や個性等をより多面的に理解し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。		
	C	集団づくり力	○ 集団づくりの意義や集団づくりの基本的な指導方法を理解している。	○ 学級担任等と連携しながら、集団づくりの経営方針に沿って、よりよい集団に育てるために指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動の指導に積極的に関わり、集団相互の関わりを活性化させ、よりよい集団づくりに専門性を生かしながら取り組んでいる。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。		
	D	課題解決力	○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、児童生徒、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。		
	E	特別な配慮を要する児童生徒への理解・支援力	○ 特別支援教育の重要性を理解し、基本的な指導・支援の方法を身に付けている。	○ 一人ひとりの教育的ニーズを把握し、他の教職員や保護者と相談しながら、適切に指導・支援をしている。	○ 教育的ニーズに対応するための専門性を高め、児童生徒の成長を促す指導・支援を行うとともに、関係機関とも連携し、特性に応じた指導・支援の在り方を提案している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向けた体制づくりを推進している。		
	F	未来ビジョン育成力	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できるように指導し、自覚を促している。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援している。	○ 学校の教育活動全体を通じて、キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。		
	F	学校給食の管理	○ 学校給食法を理解し、安全安心な学校給食管理を実践しようとしている。 ○ 学校給食に必要な調理技術を身に付けている。	○ 学校給食摂取基準に基づき、食品構成や調理作業工程を考慮した献立を作成している。  ○ 学校給食衛生管理基準に基づき、関係機関と連携しながら、適切な指導・助言及び管理を行っている。	○ 地域や「徳島ならでは」の創意工夫のある献立を作成している。また、残食調査等による状況把握から適切な栄養管理を行うとともに、教職員への情報提供や助言をしている。  ○ 市町村内の全学校給食施設において、安全安心な給食業務ができるように、近隣の栄養教諭等と連携しながら、マニュアルを作成したり、助言をしたりしている。	○ 学校給食の運営管理に関し、各校や所属する市町村において指導的役割を果たしている。		
専門的職務実践力	G	個別的な相談指導	○ 児童生徒の食生活の現状を認識し、個に応じた相談指導の重要性を理解している。	○ 個別的な相談指導の流れを理解し、学級担任や養護教諭と相談しながら、適切な対応をしている。	○ 校内食育推進組織の中で、児童生徒の状況を総合的に評価し、関係職員や学校医等と連携しながら適切な対応をしている。	○ 個別的な相談指導の実践に関し、近隣の栄養教諭や栄養教諭未配置校の教職員等に対し、経験を基に助言をしている。		
	H	教科等における教育指導	○ 学習指導要領における食育の位置付けと、食育全体計画作成時の栄養教諭の役割を理解している。 ○ 食に関する指導の学習指導案作成や教材研究を行っている。	○ 食育全体計画を作成し、学級担任等と連携しながら、給食時間の指導及び教科等における食に関する授業に参画している。  ○ 指導を振り返ったり、他の教員の授業を自分の指導の改善に生かしたりしている。	○ 児童生徒の実態に合わせた食育全体計画に沿って、食に関する授業に参画するとともに、食育実践を保護者等に発信することで、家庭や地域との連携を図っている。  ○ 校内及び市町村研究会等で、授業や実践発表を積極的に行うとともに、社会状況の変化に合わせた最新の知識や指導技術を取り入れ、指導の改善をしている。	○ 食育がより効果的に行われるよう、高い専門性を生かし、助言をしている。  ○ これまで培ってきた指導技術や指導方法を提示し、栄養教諭の範となり、食育の取組を発信している。		
	I	食育コーディネーターとしての連携・調整	○ 食育を推進するための、学校内外の連携の方法や、重要性を理解している。	○ 食育コーディネーターとして、市町村学校食育推進委員会の運営に関わっている。	○ 市町村内各校の食育全体計画の作成や円滑な実践のための支援をしている。 ○ 地域の生産者団体等と連携し、様々な体験活動を企画・調整する等、地域の食育推進に関わっている。	○ 食育コーディネーターの指導的立場となり、関係機関と連携を図りながら、市町村学校食育推進委員会の運営に中心となって関わっている。		
	J	食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	○ 食に関する指導と学校給食の特質を理解し、それらを一体的なものとして実践しようとしている。	○ 各教科等において、学校給食が「生きた教材」となるような献立づくりをしている。	○ 学校給食を「生きた教材」として活用するとともに、食に関する指導によって得られた知見や情報を給食管理に生かすことで、両者を一体的なものとして展開している。	○ 学校給食の管理と食に関する指導の相乗効果が得られるように、教職員及び家庭、地域との連携を強化している。		
協働力	A	組織マネジメント力	○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。  ○ 校務分掌等の業務内容を理解し、計画的に職務遂行に努めている。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。  ○ 校務分掌等の業務を、周囲の教職員と調整しながら遂行している。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整しながら、組織を活性化させている。  ○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。  ○ 組織全体を俯瞰し、業務の効率化を推進している。	
	B	OJT推進・人材育成力	○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員と相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。		
	C	危機管理能力	○ 安全教育・防災教育をはじめ危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育をはじめ危機管理に関する知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって未然防止に向け行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育の取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。	
	D	家庭・地域とのネットワーク構築力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	

担任力………児童生徒一人ひとりを大切に、個性や可能性を伸長・発揮させるために、学級(ホームルーム)の経営はもとより、学年、委員会活動、部活動等、児童生徒が活動する集団の担任として、全ての教員に求められる資質・能力。

未来ビジョン育成力………学ぶこと・働くことの意義や社会の形成における自己の役割を理解し、将来を描き課題解決に向けて主体的に行動する力を児童生徒に育成するために、キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を立ち、教育活動を展開する資質・能力。徳島教育大綱に示されている「未来を切り拓く」力の育成と大きく関わる。

# Ⅶ ミドルリーダー研修Ⅰで使用する様式の記入例について

栄1

【栄 様式(A)】

記入例

## とくしま教員育成指標に基づく自己評価票

研修名	ミドルリーダー研修Ⅰ	記入日	年 月 日
学校名			
職・氏名	印	校務分掌	
項目	具体的内容		該当するキャリアステージ
素養	使命感・情熱・たくましさ	使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	1・ <b>2</b> ・3
	倫理観	保護者の信頼に応え、法令等の遵守を心がけ、周囲の教職員にも働きかけるよう努めている。	1・2・ <b>3</b>
	人権尊重の精神		1・ <b>2</b> ・3
	識見・学び続ける力	【自己評価方法】①により、2行程度に簡潔にまとめる。	
	社会性・コミュニケーション力		
担任力	児童生徒理解・指導力		
	集団づくり力		
	課題解決力		1・2・3
	特別な配慮を要する児童生徒への理解・支援力		1・2・3
	未来ビジョン育成力		1・2・3
専門的職務実践力	学校給食の管理		1・2・3
	個別的な相談指導		1・2・3
	教科等における教育指導		1・2・3
	食育コーディネーターとしての連携・調整		1・2・3
	食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開		1・2・3
協働力	組織マネジメント力		1・2・3
	OJT推進・人材育成力		1・2・3
	危機管理能力		1・2・3
	家庭・地域とのネットワーク構築力		1・2・3
その他	食物アレルギー対応について、学級担任、養護教諭、保護者等と連携を密にし、安全な学校給食の提供と、児童全員が安心して楽しい給食の時間を過ごせるよう意識して取り組んでいる。		

### 【自己評価方法】

- ①栄養教諭用とくしま教員育成指標を参考に、各項目ごとに自分の現状を表すように整理して文章で記入する。  
※とくしま教員育成指標 <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tb/ippannokata/kyoiku/gakkokyoiku/5008855>
- ②「該当するキャリアステージ」は、現状で一番近いと思われるキャリアステージに○をつける。  
ミドルリーダー研修Ⅰは第2ステージ(伸長・充実期)に該当する。
- ③特徴的な取組:日頃の教育活動で、自分が心がけている取組を具体的に記述する。
- ④年度末の振り返りの際、該当するキャリアステージに赤色で○をつける。

記入例

とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定

学校名		職・氏名		印
【自己分析】		記入日	年 月 日	
<p>○よさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲とのコミュニケーションを大切にしている。課題解決に向け、校内外と連携を密にしながら、前向きに取り組むことができる。</li> <li>・何事も工夫して取り組むことが得意である。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な見通しをもって行動することが苦手であり、計画を早めに立てていく必要がある。</li> </ul>				
【自己分析に基づく本年度の目標】	<p>学校の実態、自己分析から見てきた自分のよさを踏まえて、学校や地域を活性化するための視点を記入する。研究テーマに沿った取組のための手がかりとする。いくつかの視点を箇条書きで記述することも可。</p>			
【学校・地域活性化の視点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性を生かした献立づくり及び学校給食を活用した食に関する指導を行いたい。</li> <li>・食育リーダーとして、学校の食育推進のため全教職員と積極的に関わっていく。</li> </ul>			
【研究テーマ】	「地域の魅力、再発見！学校給食における地場産物活用」			
【本年度の振り返り】	5月はここまで記入する。	記入日	年 月 日	
<p>本年度の目標の達成状況や、特定課題研究等の取組により、学校・地域の活性化にどのように寄与することができたか等、本年度の取組の成果と課題について記入する。</p>				
【ミドルリーダー研修Ⅱに向けて】	<p>本年度の研修の成果を今後の教育活動にどのように生かしていくか、本年度の取組で見てきた課題に今後どのように取り組んでいくか等、長期的な視点で記入する。</p> <p>具体的な方策を記入する。</p>			
<p>○取組を実現するための行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内において、積極的に教諭の授業実践を参観する。</li> <li>・市食育推進委員会の中心となって、運営及び若手教職員への助言を行う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">※年度末の振り返りで最後まで記入して提出する。</p>				

【自己分析と目標設定の生かし方】

- ①自己評価から見てきた自分のよさや課題を踏まえて、本年度の目標を設定する。
- ②学校の実態や自己評価をもとに、学校活性化の視点で考えられる取組をあげる。
- ③年度末に、様式(A)の「該当するキャリアステージ」を見直した上で目標に照らし合わせた振り返りと、ミドルリーダー研修Ⅱに向けた取組を計画する。

※様式(A)・(B)はミドルリーダー研修Ⅱで活用するため、コピーを個人でも保管すること。

記入例

## ミドルリーダー研修Ⅰ（校外・校内）研修計画書

学校名		校長氏名	印
受講者職・氏名		校務分掌等	

## 校外研修計画

研修の種類	月	日	日数	講座名等	場 所
共通研修	4	6	1日	共通研修（1）	総教センター
共通研修	12	25	1日	共通研修（2）	総教センター
模擬授業研修	8	5	1日	食に関する指導（家庭科）	総教センター
職務に関する研修	7	28	1日	栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修 食に関する指導/学校給食管理研修	総教センター
選択研修 (資質向上)	○	△	1日	知っておきたい！飼育・栽培の基礎知識	城西高
合 計			5日		

## 校内研修計画

	実施予定	日数等	研修内容	指導者
立 案	4月	2時間	自己評価の実施及び研修計画の立案	校長
	4月	1時間	【研究テーマ】の決定，具体的取組の構想	教頭・教務
教科等の指導 に関する研修	6月	1日	〇〇科「単元(題材)名」教材研究，学習指導案作成	教頭
	7月	1日	指導案の修正，授業準備	指導教諭
	11月	1日	〇〇科「単元(題材)名」研究授業，研究協議	校長
実践報告書の 作成	1月	3時間	報告文書作成	校長
合計		5日	※累計3時間で1日とする。	

## 記入例

ミドルリーダー研修 I 事前評価票			
学 校 名		校 長 氏 名	
受 講 者 職・氏名			
評 価 項 目	資 質 ・ 能 力		
	素 養	人権尊重の精神 栄養教諭の立場から、本校の人権教育推進に積極的に関わってほしい。	
	担任力	課題解決力 課題解決のため、教職員の連携をより一層深めてほしい。	
	専門的職 務実践力	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           「とくしま教員育成指標」の4つの資質・能力の項目について、本年度重点を置いてほしい内容を1つ、具体的に記入する。         </div>	
協働力			
校 長 所 見	※受講者の研究テーマ等を踏まえ、学校組織の中で期待する役割について具体的に記述する。		

## ミドルリーダー研修 I 事前評価票・研修計画書送付状

<p>_____教育委員会教育長 殿</p> <p>令和2年度ミドルリーダー研修 I の事前評価票及び (C) 研修計画書を送付します。</p> <p>_____年__月__日</p> <p style="text-align: right;">_____校長 _____ 印</p>
<p>徳島県教育委員会教育長 殿</p> <p>令和2年度ミドルリーダー研修 I の事前評価票及び (C) 研修計画書を承認しましたので、送付します。</p> <p>_____年__月__日</p> <p style="text-align: right;">_____教育委員会教育長 _____ 印</p>



記入例

## ミドルリーダー研修Ⅰ 校外研修実施報告書

学 校 名		受講者職・氏名	印
-------	--	---------	---

研修の種類	月	日	日 数	講座名等	場 所	印
共通研修	4	6	1日	共通研修(1)	総教センター	
	12	25	1日	共通研修(2)	総教センター	
模擬授業研修	8	5	1日	食に関する指導(家庭科)	総教センター	
職務に関する研修	7	28	1日	栄養教諭・学校栄養職員の職務に関する研修 食に関する指導/学校給食管理研修	総教センター	
選択研修 (資質向上)	<del>○</del>	<del>△</del>	<del>1日</del>	<del>知っておきたい!飼育・栽培の基礎知識</del>	<del>城西高</del>	
	○	△	1日	アサーション・トレーニング	総教センター	
合 計			5日			

欠席等の理由で、別の研修を受講した場合は、欠席した研修を二重線で消し、受講した講座名を記入する。  
別の研修を申し込む際は、まず、下記の担当に連絡をする。

## 【留意事項】

選択研修は、受講した研修講座名を黒のボールペンで記入する。  
欠席により受講しなかった講座は二重線で消し、新しく受講した講座名を記入する。その際は事前にミドルリーダー研修Ⅰ担当者に連絡をすること。  
受付時に研修講座担当者に提出し、終了時に受け取る。その際、研修講座担当者の押印があることを確認する。

ミドルリーダー研修Ⅰ担当：総合教育センター教職員研修課 電話番号088-672-5100

記入例

## ミドルリーダー研修Ⅰ 校内研修実施報告書

学 校 名		受講者職・氏名	印
-------	--	---------	---

	月	日	日数等	研修内容	指導者
立 案	4	16	2時間	自己評価の実施及び研修計画の立案	校長
	4	16	1時間	【研究テーマ】の決定	教頭
教科等の指導 に関する研修	6	5	2時間	〇〇科「単元(題材)名」教材研究, 学習指導案作成	教頭
	6	10	1時間	〇〇科「単元(題材)名」教材研究, 学習指導案作成	教頭
	6	17	1時間	指導案の修正, 授業準備	指導教諭
	7	14	2時間	指導案の修正, プレゼン作成	指導教諭
	11	4	1時間	授業準備, 指導案修正	教頭
	11	5	2時間	〇〇科「単元(題材)名」研究授業, 研究協議	校長
実践報告書の 作成	1	6	1時間	報告文書作成	教頭
	1	15	2時間	報告文書作成	校長
合 計			5日	※累計3時間で1日とする。	

上記の通り, ミドルリーダー研修Ⅰ校内研修を実施したことを報告します。

令和 年 月 日

校長

印

## 記入例

ミドルリーダー研修 I 事後評価票			
学校名		校長氏名	
受講者 職・氏名	事前評価票に記載したものを転記する。		
評価項目	資 質・能 力		達成状況
	素 養	人権尊重の精神 栄養教諭の立場から、本校の人権教育推進に積極的に関わってほしい。	3
	担任力	課題解決力 課題解決のため、教職員の連携を一層深めてほしい。	2
	専門的職務実践力	達成状況を4段階で評価する。 4 十分達成できた 3 概ね達成できた 2 やや課題が残る 1 努力を要する	
協働力			
校長所見	※研修の取組状況や、研究の成果が次年度の学校運営に生かせるものであったか、受講者の資質・能力がどのように向上したか等、今後の期待等も含めて簡潔に記述する。		

## ミドルリーダー研修 I 終了に係る報告書類送付状

<p>_____教育委員会教育長 殿</p> <p>令和2年度ミドルリーダー研修 I の終了にあたり、ミドルリーダー研修 I 事後評価票、(E) 校外研修実施報告書及び (F) 校内研修実施報告書を送付します。</p> <p>_____年__月__日</p> <p>_____校長 _____ 印</p>
<p>徳島県教育委員会教育長 殿</p> <p>令和2年度ミドルリーダー研修 I の終了にあたり、ミドルリーダー研修 I 事後評価票、(E) 校外研修実施報告書及び (F) 校内研修実施報告書を承認して、送付します。</p> <p>_____年__月__日</p> <p>_____教育委員会教育長 _____ 印</p>



【栄 様式（I）】

ミドルリーダー研修 I 受講延期願	
学 校 名	
受 講 者 名 職・氏 名	
次年度以降の 受講を希望す る理由	<p>以上の理由をもちまして、令和2年度受講から次年度以降の 受講への変更を希望します。</p>
<p style="text-align: center;">_____教育委員会教育長 殿</p> <p>上記の理由により、令和2年度の受講が困難と判断されますので、次年度以降に 受講させていただきたくお願いします。</p> <p style="text-align: center;">_____年__月__日</p> <p style="text-align: right;">_____校長 _____ 印</p>	
<p>徳島県教育委員会教育長 殿</p> <p>_____長からの願のとおり、次年度以降に受講することが適当であると 判断します。</p> <p style="text-align: center;">_____年__月__日</p> <p style="text-align: right;">_____教育委員会教育長 _____ 印</p>	
摘 要 欄	年度受講とする。

- ① 市町村立小学校長・中学校長・高等学校長は、市町村教育委員会へ提出する。
- ② 市町村教育委員会は、次年度以降の受講が適当と判断した場合は、押印の上、徳島県教育委員会教職員課へ提出する。
- ③ 国立・県立学校長は、徳島県教育委員会教職員課へ提出する。
- ④ 摘要欄は、徳島県教育委員会で記入する。



## 保存すべき文書等

各学校においては、研修の実績に基づいて文書等の整備及び保管に留意すること。

### (1) 保存すべき文書等

- ①様式（A）「とくしま教員育成指標に基づく自己評価票」の写し
- ②様式（B）「とくしま教員育成指標に基づく自己分析と目標設定」の写し
- ③様式（C）「ミドルリーダー研修Ⅰ（校外・校内）研修計画書」の写し
- ④様式（D）「ミドルリーダー研修Ⅰ事前評価票・研修計画書送付状」の写し
- ⑤様式（E）「ミドルリーダー研修Ⅰ校外研修実施報告書」の写し
- ⑥様式（F）「ミドルリーダー研修Ⅰ校内研修実施報告書」の写し
- ⑦様式（G）「ミドルリーダー研修Ⅰ事後評価票・ミドルリーダー研修Ⅰ終了に係る報告書類送付状」の写し
- ⑧「研究授業の学習指導案」
- ⑨「実践報告書」

### (2) 保存期間

5年間

※書類を郵送する際は、封筒に「ミドルリーダー研修Ⅰ〇〇在中」と朱書きすること。

令和２年度  
ミドルリーダー研修Ⅰの手引  
(栄養教諭・学校栄養職員)

令和２年３月印刷  
令和２年４月発行

編集発行 徳島県教育委員会

**徳島県教育委員会 連絡先**

〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地  
教職員課人材育成担当 電 話 088-621-3123  
ファクシミリ 088-621-2881

**徳島県立総合教育センター 連絡先**

〒779-0108 板野郡板野町犬伏字東谷1-7  
教職員研修課 電 話 088-672-5100  
ファクシミリ 088-672-6411

